

(参考)

国産牛のBSE対策(と畜場)

すべての牛の特定部位を除去、焼却

21ヶ月齢以上の牛について検査を実施
(20ヶ月齢以下は自治体が自主的に検査)

平成17年8月1日～

なお、制度変更に伴い生じかねない消費者の不安な心理を払拭し、生産・流通の現場における混乱を回避する観点から、21ヶ月齢未満の牛について地方自治体が自主検査を行う場合は、経過措置(最長3年:平成20年7月まで)として引き続き国庫補助を行う。

と畜場におけるBSE検査結果

	検査頭数	BSE確認頭数
平成13年度	523,591	2
平成14年度	1,253,811	4
平成15年度	1,252,630	3
平成16年度	1,265,631	3
平成17年度	1,232,255	5
平成18年度 (12月末日まで)	947,097	2
合計	6,475,015	19

※ 平成13年9月に千葉県で確認された1例目、死亡牛検査で確認された11例を含め、国内では31頭がBSEとして確認

BSE対策に関する調査①

(平成18年10月末現在)

牛の背割りによるせき髄片の飛散防止について

牛を処理すると畜場159施設のうち、6施設は背割りを行っていない。
残りの153施設の全てにおいて、以下の事項を確認

- ・鋸の歯を洗浄しながら切断し、脊髄を回収
- ・回収した脊髄の焼却
- ・背割り鋸を1頭ごとに洗浄消毒
- ・背割り後、せき柱中の脊髄除去
- ・除去後、高圧水により洗浄
- ・と畜検査員が枝肉への脊髄付着がないこと

背割り前のせき髄除去について

牛の背割りを行っている153の施設中、背割り前にせき髄吸引を行
っている施設は、132施設(86.3%)

と畜頭数ベースでは、96%の牛が背割り前にせき髄吸引されている。
(数値は平成17年度のと畜頭数をもとに推定)

BSE対策に関する調査②

(平成18年10月末現在)

SRMに係るSSOP(衛生標準作業手順書)について

- ◆牛又はめん羊・山羊のと畜を行っている畜場164施設の全てにおいて、SSOPが作成済み。これらの施設のうち、
 - ・適正に点検・記録がなされていた施設は124施設
 - ・点検は実施していたが、記録がなされていない施設が29施設
 - ・点検・記録が適正になされていない施設が7施設
 - ・その他が4施設
- ◆適正に点検・記録されていなかった施設については、現在改善中(改善済みを含む)である。

ピッシングに関する実態調査について

従来から食肉の安全性の確保と従事者の安全確保の両立に配慮しつつ、廃止に向けて取り組んでいる。平成17年11月には、3年間のと畜場毎の対応方針を公表

ピッシング中止施設数

	中止施設	実施施設	合計
平成16年 10月末時点	45 (28%)	115 (72%)	160
平成17年 9月末時点	68 (42%)	93 (58%)	161
平成18年 2月末時点	79 (49%)	82 (51%)	161
平成18年 10月末時点	95 (60%)	64 (40%)	159

今後のピッシング中止予定

	中止施設	実施施設
平成18年10月 末	95 (60%)	64 (40%)
平成18年度末 時点	104 (65%)	55 (35%)
平成19年度末 時点	154 (97%)	5 (3%)
平成20年度末 時点	159 (100%)	0 (0%)